

映像共有し助言

和歌山県立医科大学附属病院

和歌山県立医科大学附属病院は1月29日、和歌山市紀三井寺の同

大学で会見を開き、遠方の病院に搬送された救急患者の状態を確認できる機器「Teladoc HEALTH」

（テラドック・ヘルス）を導入すると発表した。当面の間は新宮市立医療センター、橋本市市民病院の急患が対象となり、和医大病院に常駐する医師が対応を助言する。

必要とせず、キャスターを付けることで持ち運びも容易になる。和医大病院によると、今月2日時点で橋本市市民病院の急患1件を同システムで対応した。和医大病院側で当該患者に敗血症の疑いがあり、市民病院での処置は困難と判断し、搬送を提案。患者は和

救急医療体制の強化が期待される
新宮市立医療センター



新宮市、橋本市の両医療機関と連携



導入された「Teladoc HEALTH TV PRO 300」
(和医大病院提供)

「Teladoc」は、ウィーメックス（株）が開発した遠隔医療システム。専用カメラとモニターが設置されており、通話ができることも、高画質の映像を共有することが可能。専門的な操作技術を

必要とせず、キャスターを付けることで持ち運びも容易になる。和医大病院によると、今月2日時点で橋本市市民病院の急患1件を同システムで対応した。和医大病院側で当該患者に敗血症の疑いがあり、市民病院での処置は困難と判断し、搬送を提案。患者は和

医大病院に入院し、回復傾向にあるという。新宮市立医療センターについては契約が済んだのみで、稼働時期は未定。

同センターに常駐する救急科の医師はおらず、急患が運ばれてきた際、対応を決められない場合は担当医に電話で連絡していたが、システムの導入により、円滑に判断を仰げるようになることが期待される。

和医大病院は「県内東端部の橋本医療圏と南端部の新宮医療圏から本院までの搬送に時間を要するため、圏域内で一定の医療を完結する必要がある。遠隔医療の技術を活用し、医療資源の不足のカバー、質の標準化を図る」としている。

大縄跳びやケイドロ



タイミングを合わせてジャンプ

ドロなどを行い交流を深めながら楽しいひとときを過ごした。

ジュニアボランティアクラブは児童館行事を中心に手伝いをしたり、一緒に盛り上げたり、その他にも自分たちでできることを考えて活動している。

はじめにみんなで大縄跳びを行い、上手に縄に入ってピョンピョン跳ぶ子どももいれば、怖くてなかなか縄に入っていけない子どもたちもいたが、周りから「頑張れ」と応援の声があり、勇気を出して縄に入って跳ぶ姿が見られた。

ケイドロでは、ジュ